グラフふじおか

市制施行60周年記念

特集

世界のたからもの 世界文化遺産「高山社跡」

CONTENTS

特集

世界文化遺産「高山社跡」 ―― 2
ふじおかの宝が世界の宝物に
祝・世界文化遺産　「高山社跡」

ふじおかニュース ―― 8
世界遺産登録記念フェスティバル
藤岡市制施行60周年記念式典
チャレンジサイクリングフェスタ
市制施行60周年記念花火大会
ふじおかフェスタ2014
上州藤岡蚕マラソン
市民活動フェスティバル
健康福祉祭
子どもまつり
桜山まつり

ふじおかトーク ―― 18
市民とともに歩む　ふじおかの未来

ふじおかシーズン ―― 20
春、らんまん。
夏、さわやか。
秋、いろづく。
冬、ひんやり。

ふじおかパーソン ―― 24
3つの物語～藤岡歴史人物ストーリー

ふじおかトラディショナル ―― 26
先人から受け継ぐ伝統と熱き魂

ふじおかヒストリー ―― 30
60年のあゆみ

市民が創り輝く やさしい藤岡を目指して

藤岡市長
新井利明

昭和二十九年に藤岡市が誕生してから六十年の歳月が経過しました。

六十周年記念事業では、一昨年のプレイベントからはじまり、各種団体の代表をはじめとする多くの市民の方から、アイデアやご支援、ご協力を賜り、「堀越二郎氏の軌跡展」「花火大会」「市制施行六十周年記念式典」など、多くの事業を盛会に開催することが出来ました。心から感謝申し上げます。また、ご参加いただいた大勢の市民の皆さん、誠にありがとうございました。

日本そして地方は、人口減少と超高齢化社会の到来など、難しい時代を迎えようとしています。厳しい情勢の中でも明るい未来を創るため、これからも市民と行政の連携を一層強くし、住民の生活をしっかりと守りながら、地域主導のまちづくりを推進してまいります。

身近な地域が輝き、市民の誰もが喜びを感じながら、幸せに暮らしていけるまちを、皆さまと一緒に創ってまいりましょう。

来店不要・口座不要
東和銀行カードローン
とんとん

来店不要　インターネット、電話、FAX、郵送でお申込みできます。また、ご契約も郵送でできます。

口座不要　専用カードでお借入・ご返済ができますので、東和銀行での返済用口座の作成は不要です。

お借入・ご返済はATMで！　東和銀行・提携金融機関・ゆうちょ銀行・セブン銀行ATMでご利用できます。

お申込みは 0120-108-350 インターネット 東和銀行とんとん 検索 クリック！

TOWA 東和銀行（ふれあいバンク）　東和銀行　藤岡支店　藤岡市藤岡 387 番地の 3　TEL(0274)22-1431

年金相談は当組合へ

ぐんまみらい信用組合
藤岡支店　藤岡市藤岡８４１－５　0274-22-1241　藤岡支店藤岡西出張所　藤岡市中大塚３８０－１　0274-23-5525
鬼石支店　藤岡市鬼石３９２－３　0274-52-3411

特集

世界文化遺産「高山社跡」

ふじおかの宝が世界の宝物に

祝・世界文化遺産「高山社跡」

日本近代養蚕法の標準「清温育」の発祥の地・高山社跡は、藤岡市民の誇りであるとともに、世界の絹産業の発展と絹の大衆化をもたらした歴史的遺産です。

平成26年6月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」として、世界文化遺産に登録されたことで、ふじおかの宝物は、日本、そして、世界の宝物になりました。

生糸の大量生産を実現し絹産業の発展に貢献

平成26年6月25日、ユネスコ世界文化遺産に登録された「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、長い間生産量が限られていた高品質生糸の大量生産を実現し、絹産業の発展をもたらした遺産です。

富岡市の「富岡製糸場」、伊勢崎市の「田島弥平旧宅」、本市の「高山社跡」、下仁田町の「荒船風穴」の4資産で構成され、それぞれが技術革新の場として発展し、かつて一部の特権階級のものであった絹を世界中の人々に広め、高級繊維を身近な存在に変えました。

日本の近代養蚕法の標準「清温育」を開発した場

市街地から県道下日野・神田線を椚山方面へ車を走らせると、世界遺産「高山社跡」が見えてきます。静かな山あいにひっそりとたたずんでいるのが、江戸時代後期に建築された長屋門。そして、その門の向こうにあるのが、高山長五郎の生家であり、高山社発祥の地となった母屋兼蚕室です。

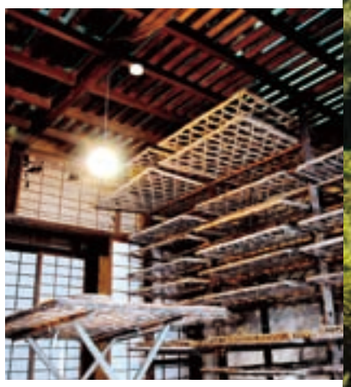
高山社は、長五郎が確立した養蚕法「清温育」を全国に広めるためにつくられた養蚕技術の教育機関です。高山社は、この蚕室からスタートし、やがて、全国62か所にまで拡大。約4万人の社員と1200人の生徒を抱える大きな養蚕技術の教育機関として成長しました。

養蚕農家を助けたい！高山社はそんな思いから始まった

昔、蚕の飼育は「お天気まかせ」「神様仏様頼み」と例えられるほど、難しいものでした。とくに、「白彊病（はっきょうびょう）（別名コシャリ）」という蚕の病気が発生すると、丹精こめて育てた蚕が全滅してしまうなど大きな被害を受けました。養蚕は、江戸時代から農家の重要な収入源。それだけに、蚕の不出来に苦しむ農家が多かったといいます。そんな姿を見て幼少期を過ごしたのが長五郎です。養蚕をしていた長五郎の祖母もまた、突然やってくるコシャリという目に見えない敵に泣くことがあったといいます。

養蚕農家が少しでも楽になるように、そんな思いで、長五郎は養蚕法の研究に励みました。自ら養蚕を始め、コシャリのために失敗を繰り返しながら、「清温育」の基礎となる温湿度管理と換気による飼育法の研究を続けました。そして、長五郎はその研究成果を養蚕農家に惜しみなく教えました。その一方で、より良い養蚕法を求め、ひたすら研究を続けたのです。

「清温育」は、蚕室内の温湿度管理を細かく行い、蚕の快適な生育環境の維持を重視しました。今も残る蚕室は、通風のために障子が大きく開く事や、屋根に熱を逃がすための天窓があるなど、清温育を行う仕組みが設けられており、模範的蚕室としてここで学んだ養蚕農家に強い印象を与えました。



「清温育」確立 藤岡から全国へ、アジアへ

繭の品質、糸の質などの研究も行い、ようやく確立させたのが「清温育」です。当時、主流だった換気を重視した「清涼育」と、蚕室を暖めて飼育する「温暖育」の長所を取り入れ、蚕室の温度調整や換気を行うもので、明治17年（１８８４）、清温育の普及のため、長五郎は自宅に養蚕改良高山社をつくり、養蚕飼育法の指導を本格的に始めました。このとき、長五郎は54歳。25歳で養蚕法の研究を始めてから30年近い歳月をかけ、養蚕技術の教育機関を設立しました。

長五郎は全国各地から集まる生徒に格安で分け隔てなく、清温育の技術を教えました。しかし、明治19年（１８８６）、長五郎は56歳の道半ばで亡くなってしまいました。愛弟子である町田菊次郎に「清温育を全国に伝え、蚕業の改良を図って、国利民福を増進しなさい」という言葉を残したといいます。「国利民福」は、人生の大半をかけ養蚕法の確立に取り組み、その研究成果を惜しみなく教えた長五郎の人生を物語る言葉です。

長五郎から高山社を託された菊次郎は、明治34年（１９０１）、明治時代では全国で唯一の私立甲種学校の「私立甲種高山社蚕業学校」を創立しました。養蚕技術のほか、一般教養も教えた高山社蚕業学校には、北は北海道、南は九州、さらに、朝鮮や中国からも多くの生徒が集まりました。そして、「清温育」は全国標準の養蚕法と呼ばれるようになったのです。

高山長五郎

座右の銘「国利民福」

近代的な養蚕法「清温育」を全国へ普及指導した高山社の創立者です。長五郎は18歳で家を継ぎ、名主となりました。幼い頃から養蚕の不出来に苦しむ農民の姿を見続けてきた長五郎は25歳の時、養蚕の研究を始めました。試行錯誤の中から確立したのが「清温育」です。長五郎はその養蚕技術を分け隔てなく教える養蚕教育機関高山社を設立。その2年後、志半ばで亡くなりました。

町田菊次郎

座右の銘「救世済民」

高山長五郎の「国利民福」という遺志を継ぎ、高山社二代目社長となりました。弱い人のために尽くす「救世済民」を座右の銘とした菊次郎は、積極的な行動力と優れた判断力を生かし、明治34年、明治時代では全国で唯一の私立甲種学校「私立甲種高山社蚕業学校」を創立。社員制度、優秀な卒業生を全国に派遣し指導にあたらせる授業員制度、分教場制度等の事業を整備拡充しました。

高山社跡を核に広がる 絹のまち・藤岡

会遊亭

大正時代の蔵を利用した観光案内施設です。平成25年６月、街中の活性化を目的に、中央通り商店街に誕生しました。高山社跡や市内観光の情報を発信しているほか、藤岡の名産や絹関連の小物を販売するお土産コーナーもあります。また、休憩スペースはイベントスペースとして開放。藤岡北高の生徒が開発した高山社跡にちなんだスイーツを販売するイベントなど、さまざまな団体に利用されています。

まゆダーマン

さまざまなイベントに登場するたび、子どもたちに大人気のまゆダーマンは平成22年から、上州ふじおか絵巻の会のメンバーとともに、藤岡市の養蚕の歴史と文化をPRしようと活動しています。平成25年には、高山社跡世界遺産登録推進キャラクターに公認され、「まゆダーマン体操」や「まゆダーマン紙芝居」などを通じて、藤岡の歴史を子どもたちにわかりやすく伝えています。

まゆ花の会

平成25年、市内で活動していた３つのまゆクラフトグループが一緒になり、まゆ花の会として活動を開始。高山社や養蚕の歴史を勉強しながら、まゆクラフトづくりや座繰り実演、自主的に高山社跡の掃除などをしています。「高山社跡とつながりを持ったことで、人の輪も作品も広がった」と話すのは会長の沢入千賀子さん。まゆクラフト作品や座繰り実演を通して人々と交流を図り、高山長五郎と高山社跡の素晴らしさを伝えていきたいと話しています。

高山社を考える会

平成20年に会を発足して以来、高山社の歴史を学ぶと同時に、その日本の絹産業発展に寄与した高山社の功績を史料にまとめるなど、高山社の価値を伝える活動をしています。「高山社の価値とは、『みんなで豊かになろう』と、人々に技術を分け隔てなく教え伝えたこと」と話すのは会長の小坂裕一郎さん。今後も、高山社跡を訪れる人々に、「みんなで豊かになろう」という高山社の心を持ち帰ってもらえるような活動をしていきたいと話しています。

祝・世界遺産

世界遺産登録決定の瞬間！

ドキドキワクワク 6月21日 ドキュメンタリー

高山社跡に設置された特設ステージ

受付開始とともに多くの市民が詰め掛けました

午後2時30分受付 期待に胸を膨らませた市民が集結

平成26年6月21日、運命の日がやって来ました。この日は、ユネスコ第38回世界遺産委員会の世界遺産会議において、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録されるか否かが決定する大事な日。世界遺産を目指し、高山社跡を応援してきた市民にとって、待ちに待った日です。

高山社跡に設けられた特設会場には、午後2時30分の受付開始とともに、世界遺産登録の瞬間を祝おうと、多くの市民が集まりました。特設ステージには、くす玉が掲げられ、その横には、カタール・ドーハでリアルタイムに行われている世界遺産会議のようすが流れるモニターが置かれています。

パブリックビューイングで最後の応援

午後3時開会 パブリックビューイング開始

午後3時、いよいよ開会です。藤岡市民6万8千人が待ちに待った高山社跡の世界遺産登録の夢が達成できる瞬間が刻一刻と迫ってきました。登録決定までの間は、パブリックビューイングで審議のようすを見守りながら、最後の応援を届けます。

ドーハ審議は英語で進められます。そのため、同時通訳を介し、審議状況が知らされます。

世界遺産登録までの道のり

高山社跡を含む「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産推薦候補に正式決定したのは、平成24年8月23日のことです。同年9月25日、国からユネスコ世界遺産センターへ世界遺産推薦書暫定版を提出しました。

その1年後である平成25年9月26日、ユネスコの諮問機関の一つ、イコモス（国際記念物遺跡会議）の調査員が高山社跡へ調査に訪れました。その調査員の祖父は、なんと高山社で養蚕を学んだ卒業生。高山社の教え・技術は中国の養蚕農家にまで伝わっていたことがわかりました。イコモスの現地調査から7か月後の同26年4月26日、イコモスから世界遺産一覧表への「記載」が適当との勧告が出されました。そして、同年6月21日、運命の日を迎えたのです。

審議のようすを見守ります

画面に高山社跡の写真が映し出されました。いよいよ審議開始です

新井市長、冬木市議会議長、小坂会長、美九里西小児童、まゆダーマンによるくす玉割り

喜びにあふれる会場

歓喜の声にわく会場

万歳三唱。大きな声が響きました

午後4時32分、審議スタート 午後4時55分、歓喜にわく

午後4時32分、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の新規世界遺産登録審議が開始されました。イコモスによる勧告内容及び審議対象の概要説明の場面では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の紹介写真が画面に映し出されました。高山社跡の番になると、会場から「わぁ!」といった喜びの声がこぼれます。目の前にある高山社跡の写真が画面に映し出されると、緊張がピークに達しました。

各委員による審議では、ユネスコ委員が「支持」、「不支持」を表明していきます。「支持」、「支持」、「支持」と、すべての委員から支持が表明されると、4時55分、議長が裁決を行い、全会一致で「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産登録が決定されました。

万歳三唱、くす玉割り 喜びにあふれる特設会場

世界遺産登録決定が決まると同時に、会場は歓喜の声にわきました。特設ステージには、新井利明市長、冬木一俊市議会議長、高山社を考える会の小坂裕一郎会長があがり、小坂会長の発声で万歳三唱が行われ、高山社跡に「バンザーイ」の掛け声が響き渡りました。続いて、美九里西小学校児童会の児童たち、まゆダーマンが加わり、ステージ上にあったくす玉が割られました。会場は鳴り止まない拍手で大盛り上がり。世界遺産登録の喜びを会場にいた約250人の関係者や市民で味わいました。

世界遺産とは

1972年の第17回ユネスコ総会で採択された世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）に基づいて世界遺産リストに登録された自然･文化遺産です。遺跡、景観、自然など国や民族を越えて共有すべき「顕著で普遍的な価値」をもつ人類共通の財産です。2014年6月現在で世界中から1007件が選ばれており、日本には18件あります。

懸垂幕が掲げられた高山社跡

美九里西小児童が作文を披露

シンポジウムや演奏会など 喜びでいっぱいの市民祝祭イベント！ 世界遺産登録記念フェスティバル

平成26年10月5日、「世界遺産登録記念フェスティバル」がみかぼみらい館で開かれました。同フェスティバルは、高山社跡の世界文化遺産登録を記念する祝祭イベントで、全館を使ってシンポジウムや演奏会、展示、物産販売などが行われ、多くの人でにぎわいました。

■式典・シンポジウム

小ホールで開催された式典では、新井利明市長が世界遺産登録の喜びや協力していただいた市民への感謝、今後の期待などを述べたあいさつに始まり、世界遺産登録に貢献した個人・団体に感謝状が贈呈されました。また、高山社関連児童絵画入賞者（市文化協会主催＝金賞6人、銀賞11人、銅賞26人の計43人）の優秀賞表彰も行われました。

式典に続いて行われたのが、2部構成のシンポジウムです。第1部のテーマは、「世界のたからもの『高山社』～記憶をつなぐためのしくみをつくろう！～」。県立女子大准教授の新井小枝子さんをコーディネーターに招きパネルディスカッションが行われました。パネラーは養蚕農家の酒井増美さん、高山社跡解説員の杢師昌弘さん、美土里小学校教頭の春山秀幸さん、藤岡青年会議所副理事長の塚本浩史さん。和やかな雰囲気の中、今後の高山社の活用や観光振興などについて話し合われました。

第2部は、美九里西小学校の児童による「高山社学発表会」です。児童たちは、清温育を確立した高山長五郎の功績を手作りのパネルなどを使って発表しました。来場者は児童たちの元気で分かりやすい学習発表を食い入るように見つめ、発表が終わるや否や、大きな拍手を送っていました。

■児童絵画展

式典で表彰された高山社関連児童絵画の優秀作品が大ホールホワイエを彩りました。力作ぞろいの作品が来場者を楽しませ、また、自分の作品の前で記念写真を撮る児童の姿もありました。

■演奏会

大ホールでは「みらいの丘　秋の音楽祭」と題した演奏会が開かれました。出演したのは、武蔵野音楽大学、新みかぼフィルハーモニック、藤岡地方ユネスコ少年少女合唱団で、美しい音色、かわいらしい歌声が聴衆を魅了しました。

■その他のイベント

座繰りや機織りの展示・実演、江戸期三井越後屋関連資料展、諏訪神社宮神輿展示、その他、お茶席やまゆダーマン紙芝居、物産販売など盛りだくさん。来場者は祝賀ムードを満喫しながら、さまざまなイベントを楽しんでいました。

シンポジウム「パネルディスカッション」

美九里西小の高山社学発表会

元気いっぱいの学習発表

多くの人でにぎわった絵画展

新井市長から感謝状を贈呈

金賞を受賞した児童たち

美しい音色とかわいい歌声が聴衆を魅了

座繰りの実演

ピエロのパフォーマンスに拍手

鬼石三杉太鼓（右上・右下）

上州藤岡上杉管領太鼓（左上・左下）

感謝状を贈呈された皆さん

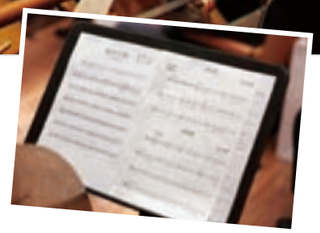
市政功労章を受章した宮下義男さん

市政功労章を受章した木村榮さん

全員で「バンザーイ」

休憩を挟んで繰り広げられたのが、鬼石三杉太鼓と上州藤岡上杉管領太鼓による和太鼓演奏です。鬼石三杉太鼓が力強い太鼓の音色を披露し、上杉管領太鼓が戦国時代の合戦を彷彿とさせる魅力的な演奏を披露し、聴衆を魅了。60周年を記念する式典に華を添えました。

式典の締めくくりは、大島孝夫副市長の音頭で行われた万歳三唱です。喜びにあふれた「バンザーイ」の掛け声が会場を包み込みました。



NEWS 2014

市民とともに歩いた60年。市民とともに進む、これから・未来！

藤岡市制施行60周年記念式典

昭和29年（1954）4月、1町4村が合併し、藤岡市が誕生してから60周年を迎えた平成26年11月1日、藤岡市制施行60周年を祝う記念式典がみかぼみらい館で行われました。式典には姉妹都市である石川県羽咋市長をはじめ、来賓や招待者ら約800人が出席。市民とともに歩いた藤岡市の60年間に感謝し、皆で祝いました。

式典のオープニングを飾ったのは、藤岡市の歩みを紹介する映像放映。藤岡の緑と清流に恵まれた豊かな自然や歴史、市制施行から60年の間に発展を遂げてきた藤岡市の姿を映像で振り返りました。

国歌斉唱では、開場中にも軽やかな演奏で来場者たちを楽しませた東中学校吹奏楽部が演奏を担当。来場者は、みかぼ合唱団と小野ふるさとコーラスのメンバーとともに斉唱しました。続いて、市歌合唱が行われ、「手と手を結び未来を創ろう　ああ藤岡市　われらの誇り」という大きな歌声が会場に響き渡りました。

新井利明市長は式辞の中で、「地域社会が輝き、市民の誰もが喜びを感じて幸せに暮らしていけるよう、市民と市政が一緒になって、協働のまちづくりを推進していきたい」と述べました。

式典の目玉となったのが、表彰です。新井市長から2人の市政功労者へ功労章が授与されました。また、市政に貢献された58人と1団体に感謝状が贈呈されました。会場からは、表彰された方へ温かい拍手が送られました。

NEWS 2014

5年ぶりの花火大会！市制施行60周年を記念して 藤岡の夜空に1万発の花火が輝く

市制施行60周年を祝う花火大会が平成26年8月23日、神流川河川敷で開かれました。藤岡市としては5年ぶりの花火大会で、色とりどりの花火約1万発が打ち上げられ、藤岡の夏の夜空に大輪の花を咲かせました。

会場の神流川河川敷には大勢の人が集まり、頭上に迫ってくるような鮮やかな花火を楽しんでいました。大きな花火が打ち上げられるたびに、「わぁー、すごい」といった声や拍手が飛び交いました。60周年を記念した美しい花火大会は、多くの人を笑顔にしました。

「フジヒル」にサイクリストが大集合！市内を笑顔で疾走。気力と体力の限界にチャレンジ

NEWS 2014

平成26年6月1日、チャレンジサイクリングフェスタ「上州藤岡ライド&ヒル（通称フジヒル）」が開催されました。長距離を走る「ロングライド」と山登りの「ヒルクライム」を組み合わせたもので、今回で3回目の実施。県内外から集まった365人のサイクリストたちが60㎞のチャレンジコース、30㎞のエンジョイコースにそれぞれ挑戦し、藤岡の自然を満喫しながら、サイクリングを楽しみました。

とくに、60㎞のチャレンジコースは、山あり、谷あり、川沿いに伸びるサイクリングロードあり、標高差443mにもなる急な上り坂ありと、起伏に富んだタフなコース。サイクリストたちは、最高気温が30℃を超す真夏日にもめげず、気力と体力の限界にチャレンジ。新緑の中を疾走していました。コース上に設けられた休憩スポットでは、藤岡産のキュウリやトマトなどが振る舞われていました。

約3,000人のランナーが力走！ 藤岡路を駆け抜ける 上州藤岡蚕マラソン

NEWS 2014

朝からさわやかに晴れた平成26年11月30日、「第3回上州藤岡蚕マラソン」が行われました。スタート・ゴール地点となったのは、陸上競技場。ここからハーフ、10㎞、5㎞、3㎞、2㎞、1㎞のコースが設けられ、ランナーたちはそれぞれの目標に向かってコースを駆け抜けました。

ゴール後のお楽しみは、総合運動公園内で展開されているイベント。藤岡市のB級グルメ「キムトマ煮込みうどん」や有機米のおにぎり、藤岡産の豚肉を使った豚しゃぶしゃぶが無料で振る舞われました。ほかにも、大抽選会や物産展が催され、イベント会場は大変にぎわいました。

たのしい・おいしい・フェスティバル！ 笑顔がいっぱいの ふじおかフェスタ2014！

NEWS 2014

平成26年10月26日、「ふじおかフェスタ２０１４」が群馬医療福祉大学藤岡キャンパスで開催されました。「おいでよ！ノッテる 藤岡に」がテーマの同フェスティバルでは、市内の産業が集結した「産業博」や土器づくり体験など、さまざまなイベントが催されました。総合司会はよしもと群馬住みます芸人として活動している、お笑いコンビ「アンカンミンカン」。笑いを交えながらの軽快な進行のもと、同フェスティバルのメインイベントである「C－1グランプリ」がスタートしました。

今回で４回目を迎えるC－1グランプリは、藤岡の名物にしたい（なってほしい）料理を市民の投票で選ぶというもの。市内から13の飲食店が自慢の「うめーもん」を引っさげ参加しました。販売スタートと同時に、会場はお客さんでいっぱいに。来場者は各店自慢のうめーもんに舌鼓を打っていました。一般投票の結果、柿ノ木の「おやじのひれかつ」が第４回グランプリに輝きました。

NEWS 2014

市民活動フェスティバル！
さまざまなボランティア活動を紹介！

平成26年10月12日、総合学習センターで「市民活動フェスティバル～ボランティアっていいな!!～」が開催されました。同フェスティバルは、日ごろボランティア活動をしている団体や学校などが一堂に会し、活動の成果を発表するとともに、相互の交流を深めようと開催されているものです。

会場では、市民活動団体によるステージ発表のほか、体験コーナー、パネル展示などが行われ、訪れた人たちがさまざまなボランティア活動に触れていました。

NEWS 2014

健康と福祉について知る・学ぶ！
第20回健康福祉祭を開催

健康福祉祭が平成26年10月25日、市民ホールで開催され、骨密度や体力測定ができる健康チェックや高齢者疑似体験などが行われました。来場者は体験や展示を通して、健康や福祉について学んでいました。多くの人でにぎわった会場でひときわ人を集めたのが、歯周病検査です。あっという間に先着１００人という定員に達してしまうほどの人気ぶりで、同年４月、「藤岡市歯と口の健康づくりの推進に関する条例」が施行されたことを受け、歯と口の健康について関心が高まっているようでした。

NEWS 2014

座繰り、まゆクラフト、コマ回し…。
おもしろ遊びを堪能した「子どもまつり」

子どもが主役の「子どもまつり」が平成26年12月6日、市民ホールで開催されました。クリスマスリース作り、座繰り体験、竹とんぼ作り、コマや皿回しなどの伝承遊びの体験、ミニ電車など、多彩なコーナーで埋め尽くされた会場は、多くの子どもたちでにぎわいました。なかでも、ひときわ人気を博したのが、歳末の風物詩・もちつき大会です。杵を両手で持った子どもたちは、順番にもちつきを体験。できたての餅は、お雑煮などで振る舞われ、来場者はつきたての餅を堪能していました。

NEWS 2014

12月1日は桜山まつりの日！
桜山に咲く冬桜の満開を祝福

毎年12月1日に開催されている「桜山まつり」が今年も開催されました。冒頭で、歌手の湯原昌幸さんに、引き続き藤岡市観光大使をお願いする委嘱状が新井利明市長より渡されました。続いて、湯原さんの歌謡ショーがスタート。桜山に湯原さんの歌声が響き渡ると、訪れた人たちはその歌声に酔いしれていました。歌謡ショーの後は、お待ちかねのとっちゃなげ汁の配布です。あったかい汁に舌鼓を打ちながら、冷え切った体を温めていました。

ふじおかトーク
「市民とともに歩む ふじおかの未来」

市長インタビュー

藤岡市長　新井利明

藤岡市は昨年、市制施行60周年を市民総出で祝いました。昨年を振り返ると共に、藤岡市の現在、未来に向けた取り組みを新井利明市長に聞きました。

「市制施行60周年を振り返って」

昨年は、藤岡市の長い歴史の中でも一つの節目の年でした。記念式典、花火大会などの記念事業は、市民や各種団体の皆さんに実施委員会をつくってもらい多くの意見をいただきながら実施することができ、どれも大成功でした。イベントは行政だけではなかなか大きくできないのですが、皆さんのご理解があったからだと感謝しております。

昨年一年間を通して、60年の間に先人が築かれた土台は、やはり大きいものがあるなと感じました。これから我々や幅広い市民の力で、今後の70周年、80周年を見据えて、藤岡をどういうまちにしたいか、どうあったらいいのかを、しっかりと考えていくことが大切だと改めて思っています。

「この10年間を振り返って」

●鬼石町との合併と今後について

平成18年1月に鬼石町と合併し9年が経ちました。今年は鬼石総合支所を建て替えます。住民の皆さんが一つのところに寄って、色々なことがかなうように集会もできる、行政機能、公民館機能、防災機能も備えた施設となります。近くに情報センターもありますから、施設を集約して地域がますます活性化し、交流が広がり、市民と行政がより近くなることを期待しています。

●高山社跡の世界文化遺産登録を受けて

世界遺産を保有することに、まず市民全員が誇りを持っていただきたいと思います。高山社跡の整備については、昔の姿に徐々に戻していきます。長い年数がかかるかもしれませんが、見学者には少しずつ変わっていく様子も見ていただきます。高山社は昔の農家ですから建物を見てあまり楽しめるものではありません。しかし、そこで行われていた養蚕教育、女子教育といったものをしっかり学べるよう、体験館をはじめ周辺整備を進めていきます。

現在、小学生から中学生までが、授業で高山社学を学んでいます。子供たちには、外出した際に「藤岡はどんなまちですか」と聞かれたら、「高山社という世界遺産があるんです」と、さらには高山社を説明できるくらいになってもらいたいです。世界遺産に登録される前、国際機関の調査員がいらした際に、登録に向けて大事なことは「その地域に住んでいる方々の熱意」だとおっしゃっていました。藤岡では「高山社を考える会」という組織があって、そこから企業や団体に認知度が広がっていきました。市民と行政とが一つの方向に動くとき、相当大きな力を発揮するのだなと実感しました。

高山社学

●藤岡の偉人について

60周年の区切りに、藤岡の偉人たちに光を当てた事業を行いました。だれもが知っている和算の大家・関孝和翁は、和算という大変難しいものを江戸期に研究されていたことはすごいことです。航空工学者・堀越二郎翁もしかりで、日本の飛行機の発展に力を注がれました。現代に置き換えても偉人たちから学ぶことは多いと思っています。

●群馬医療福祉大学の誘致と今後の連携について

大学の誘致から5年が経ちました。看護学部の卒業生が、藤岡総合病院をはじめ市内の病院に勤務されています。その中には県外から来られた方もいて、人口増加といった大きな課題にも効果がありました。大学は知的財産を多く保有していますので、教授や学生さんと、行政と団体や市民が連携することで、市全体に大きな成果をもたらすことにつなげていきたいです。

●特別支援学校の誘致について

昨年4月、県立特別支援学校の誘致・開校がかないました。私は市長就任以来、一貫して障がい者問題に取り組んできました。県に学校の開設をお願いする原動力は、障がい児をもつお母さん方の熱意でした。それまでは高崎市内の学校への送迎だけでも、多くの労力と時間がかかっていました。今後は高等部の誘致に取り組みます。「困っている人に光を当てる」これは私の信条です。

「市長のこれからの取組みについて」

●少子高齢化と人口減少化社会の到来に対して

これは大変大きな問題です。その対策は広範囲にわたりますが、特に若い人の働く場所をつくっていかないと、地方はどんどん人口が減ってしまいます。高校を卒業して進学や就職により県外に出て行かれた若者から、藤岡で就職を希望しているという声を多く聞きます。その度に「働く場所を確保してあげなければいけない」と強く思います。企業誘致や雇用創出のための施策はこれからもしっかりと取り組んでいきます。もう一つは健康ですね。高齢者の筋力トレーニングを市内全域で行っていますが、高齢者にはやはり元気でいてもらいたいです。教育、雇用、健康これらの問題が上手く一緒に対応できると、その都市の力がぐっと伸びると思っています。

高齢者筋力トレーニング教室

●東日本大震災と大雪の経験を活かして

地震は予兆も無く突然訪れますので、だれでも常に意識を持っていなければいけません。また、昨年のような大雪は今後も起こりうると思いますので、その対応を盛り込んだ地域防災計画を見直しています。大雪で一番困るのは道路の除雪です。昨年は土木建設業の方々に大変お世話になりましたが、これからも連携を密にして、いざという時には早期に取り掛かる体制を整えておくことが大切です。市民の安全と安心をしっかりと確保することが、行政の最重要課題です。

●観光について

高山社跡をはじめ桜山、ふじの咲く丘など市内の観光地は、世界の名だたる観光地とは違います。だからこそ、継続してお客さんに来ていただける施策を考えていきます。誘客には英語圏や中国、東南アジアにも目を向けていきたいです。市内や周辺の観光施設を周遊してもらう仕組みも大切だと考え、隣接する神川町との連携も進んでいます。そこで必要になってくるのが新橋です。観光連携のほか藤武橋の渋滞緩和にも役立つと考えています。今年は関係する市町で期成同盟会を組織して、国や県と話し合う体制を整えます。大きな効果が期待できますので、しっかりと取り組んでいきます。

●公立藤岡総合病院の統合について

外来棟と入院棟が離れた場所にあることによる患者さんの不便を解消し、医師や看護師さんの働きやすい環境もつくろうということが統合に向かう大きな要因でした。財政的に厳しい面もありますが、今年から建設工事に入り着実に進めていきます。

ふじの咲く丘

●市民協働のまちづくりの推進について

最近、協働という言葉がいろいろな場面で行政の中に出てきます。昔から行政と市民、団体は協働してきましたが、再認識する意味で文章にしたり、具体的に協働したりしています。藤岡の市民は温かい気持ちの方が多いですから、市がこうやっていきましょうということにご理解をいただいて、協働してまちづくりが行えていると思っています。今後もこの協働をさらに深めていくことで、住みやすいまちづくりが進んでいくと確信しています。

Fujioka Season
ふじおかシーズン

春、らんまん。

まちが春色に染まる。

桜、藤、ツツジ、ポピー…。
可憐な春の花がバトンをつなぎ、春の花が次々と開花します。

Fujioka Season
ふじおかシーズン

夏、さわやか。

木々を渡る風が気持ちいい。

緑が映える山々、涼をもたらす清流…。
美しく豊かな自然を満喫しながら散策を楽しむ季節です。

Fujioka Season
ふじおかシーズン

冬、ひんやり。

肌を突き刺すような冷たい空気。

冬桜、雪化粧した御荷鉾山、春を待つシンビジウム…。
さまざまなカラーに染まります。

Fujioka Season
ふじおかシーズン

秋、いろづく。

秋色に染まる山々。

稲の絨毯、朱色に染まる秋の森…。
鮮やかに彩られる秋の風景が楽しめます。

3つの物語

STORY OF HISTORY

～藤岡歴史人物ストーリー～

藤岡には、歴史に名を残した多くの偉人がいます。
ここでは、算聖と呼ばれる関孝和、桜山公園を造った飯塚志賀、
アニメ映画の公開で、一躍時の人となった堀越二郎をピックアップ。
時代もジャンルも異なる３人を３つの物語にして紹介します。

関孝和物語

―世界の三大数学者といわれた和算家―

上毛かるたで「和算の大家関孝和」と詠われる関孝和は、江戸時代に活躍した和算家（数学者）です。和算とは、文字や記号を使って計算する、日本独自の数学のことで、孝和は、独自の記号法（傍書法）を開発。自由自在に数式を表現し、算木を使って高次方程式を解く天元術に改良を加えた点竄術（てんさんじゅつ）を発明しました。この発明は和算の発展に大きく貢献しました。

孝和は、江戸時代の初めに藤岡の武士の家に生まれた（江戸小石川生誕説もあり）といわれています。6人兄弟の二男で、10歳のとき、両親がなくなり、関家の養子となりました。30歳のころから、甲府の徳川綱重、綱豊に仕え、勘定所の事務一切を検査する勘定吟味役を務めました。その後、主君の綱豊が六代将軍・家宣になったのを機に、江戸幕府に仕えました。

数学の研究に生涯をかけた孝和は、宝永5年（1708）10月24日、江戸で亡くなりました。円周率や球の体積の計算方法を導き出した孝和の業績は、後進の和算家に大きな影響をもたらし、自らを「関流」と称する和算家が数多く生まれました。

市内の光徳寺には、孝和のお墓があります。没後250年祭の昭和33年に孝和の御霊を迎えて築かれたものです。また、「関孝和先生顕彰全日本珠算競技大会」など、孝和を顕彰する行事が行われています。

光徳寺にある分骨墓（右）市民ホール前に建つ算聖之碑（上）

関孝和先生顕彰全日本珠算競技大会

飯塚志賀物語

―冬桜の咲く「桜山公園」の創設者―

桜山公園第3の広場近くに、冬桜を背にして立つ、和服姿の銅像があります。美髯（びぜん）で知られ、「三波川将軍」の愛称で慕われた、元三波川村長の飯塚志賀。冬桜の咲く桜山公園の創設者です。

志賀は安政6年（1859）2月、父の後を継ぎ戸長となり、同年8月三波川村長に就任。以後、村長として35年間、地方自治と公共のために尽力しました。

桜山公園は、春は桜を、秋は紅葉を楽しめる村民の憩いの場をつくろうという志賀の思いから始まったものです。明治41年（1908）、国有地であった山林原野を買い取り、1000本のソメイヨシノと、村民各戸で持ち寄った310本のカエデを植栽しました。植え付けは、村民総出で参加。山頂を含めた約5haの地は、村民の手で整備されました。村民による植え付けから3～4年が経った11月、突然3割ほどの桜が開花しました。購入した苗はソメイヨシノで、冬に咲く桜があることを知らなかった村民の驚きは大変なものだったといいます。

大正12年（1923）、志賀は病に倒れ、この世を去りました。それから2年経った同14年（1925）12月1日、村民が一戸1人以上参加した花見の宴が開かれました。初の桜山まつりです。以後、毎年12月1日に桜山まつりが開かれています。志賀の銅像は、冬桜を愛でる人々を見守るかのようにたたずんでいます。

大正４年に撮影、志賀と三波川村の有志

頌徳碑の除幕式と宴会場

桜山の中腹に建つ銅像

堀越二郎物語

―「零戦」を設計した航空工学者―

アニメーション映画「風立ちぬ」の主人公のモデルになった航空工学者・堀越二郎は、明治36年6月、藤岡市上落合で生まれました。寺子屋を開き勉強を教えていた祖父の影響を受け、勉学に励む少年だったといいます。藤岡中学校に入学してからは、成績は抜群で、卒業より1年早く、第一高等学校に合格、その後、東京帝国大学（東京大学）に進みました。

大学で航空学を学んだ二郎は、昭和2年、三菱内燃機株式会社（三菱重工業）に入社。同4年には、欧米に航空機の研究に派遣され、入社5年目の29歳のとき、七試艦上戦闘機の設計を担当しました。

航空機の設計士として華々しいスタートを切った二郎の名を確固たるものにしたのは、昭和9年に設計した九試単座戦闘機（九六式艦上戦闘機）の成功でした。抜群の操縦安定性を誇り、海軍の主力戦闘機となりました。

日中戦争が始まった昭和12年10月、二郎は戦闘機の開発要請を受けました。条件は、「長い航続力」「時速500㎞以上の高速」「素早い上昇力」「強力な機銃装備」。これまでの常識を超える戦闘機の設計でした。二郎は主任設計技師として若手28人で編成した精鋭チームを引っ張り、いくつもの難題を乗り越え、昭和15年7月に「零式艦上戦闘機（通称・零戦）」の設計に成功しました。太平洋戦争では、アメリカ軍から恐怖のゼロ・ファイターと恐れられ、日本人の飛行機として今でも語り継がれています。

戦後は、国産初の旅客機となった「YS－11」の基本設計に携わりました。

九試単座戦闘機

零式艦上戦闘機（零戦）

先人から受け継ぐ伝統と熱き魂

歴史や伝統文化を大切にしてきた藤岡市では、エネルギーがはじける夏祭りや獅子舞などの郷土芸能が受け継がれています。人から人へとつながれてきた、郷土愛あふれる熱き心の数々を紹介します。

藤岡まつり

7月下旬に市街地で2日間にわたって開催される、市民参加型の夏祭り。諏訪神社と富士浅間神社の歴史ある祇園を引き継いだ「宮神輿渡御」や市民パレード、子どもみこし、飛び入り参加も可能な藤岡オリジナルダンス「ダンスFujiokaウーハッ!」など多彩なイベントが繰り広げられます。なかでも、日が暮れてから盛り上がる大人みこし、祇園山車行進では、みこし担ぎの威勢のいい掛け声や祭り囃子が響き渡り、藤岡の街は祭りムード一色になります。

鬼石夏祭り

祇園祭として江戸時代後期に始まった、歴史ある夏祭りです。地区ごとに独自の調子を持つお囃子を打ち回しながら、5台の山車が町内を練り歩きます。最大の見せ場は、坂道で山車を一気に引き上げる「新田坂の駆け上がり」と5台の山車が一堂に会する「寄り合い」です。寄り合いでは、各町内で受け継がれてきたお囃子の打ち回しの後、5町内一斉の乱れ打ちが行われ、祭りの盛り上がりは最高潮を迎えます。

御荷鉾山不動尊の獅子舞

天保14(1843)年に始められたと伝わるもので、地域の住民でつくる妹ヶ谷不動尊獅子舞保存会が伝承。3頭の獅子のほかに、道化役がいるのが特徴です。

獅子舞を後世に残していきたい

妹ヶ谷不動尊獅子舞保存会　飯塚　暹さん

第二次大戦後、途絶えていた御荷鉾山不動尊の獅子舞は、三波川西小学校の職員による郷土芸能の教材化により掘り起こされ、同小児童たちにより復活しました。「獅子舞は地域の輪そのものだった」と飯塚さんは振り返ります。3頭の獅子に驚いて泣く子どももいたり、ひょっとこのユーモアたっぷりの振る舞いに皆で大笑いしたり、獅子舞を中心に地域の輪が育まれ、絆を深めてきた歴史がありました。「御荷鉾山不動尊の世話人として、12年間尽力しました。世話人の座を後進に譲った現在は、『獅子舞を含めた不動尊の歴史を一冊の本にまとめてほしい』との地域の声に応え、東奔西走する毎日です。歴史を調べていくうちに、地域の輪の象徴である獅子舞の火を消してはいけないという気持ちがますます強くなった」という飯塚さん。獅子舞と不動尊の歴史をまとめることによって、地域の文化財を再認識してもらい、獅子舞を後世に残していきたい。その思いがふくらんでいます。

三嶋様の夜祭り

三嶋神社の秋季例大祭の前夜祭として、本社（下ノ宮）と別殿（上ノ宮）との間を神輿が渡御する伝統行事。花火が打ち上げられ、多くの参拝客でにぎわいます。

「三嶋様のためなら」という思いに支えられて

三嶋神社世話人　第80代総代　折茂 秀治さん
第81代総代　金澤 甲さん

三嶋神社は４代平井城主・上杉顕定が、伊豆三嶋大社から分祀し、平井城の氏神として祭ったと伝えられている歴史ある神社です。神社のまつりごとを仕切るのが、総代をはじめとした世話人たちで、平成26年の年中行事を仕切ったのが第80代総代の折茂さんです。「今年の夜祭りも良かったよと声をかけてもらえてほっとした。歴代の総代たちがやってきた最低限のことはできたかな」と肩の荷を下ろします。その折茂さんからバトンを渡された金澤さんは、第81代総代として、平成27年の年中行事を仕切ります。

三嶋様の夜祭りで打ち上げられる花火は、地元の人の寄付でまかなわれています。歴史ある祭りと神社を支えているのは、地元の人の「三嶋様のためなら」という思いです。「その思いがあるからこそ、自然と継承につながっている」と二人は声をそろえます。「広報活動にも力を入れて、夜祭りをもっと多くの人に知ってもらい、にぎやかな祭りにしたい」と金澤さんは話しています。

土師神社の秋祭り

五穀豊穣、天下太平を願った秋祭りで、獅子舞や流鏑馬、花馬が奉納されます。流鏑馬では、参道に設けられた約160mの馬場を騎射しながら駆け抜けます。

花馬・流鏑馬の復活から継承へ

本郷根岸 花馬保存会　会長　青木 由行さん

本郷・根岸の人たちは、土師神社の春祭りには下郷が太々神楽を、秋祭りには寺山が獅子舞を、花馬・流鏑馬は行政区の持ち回りで継承してきました。花馬・流鏑馬で登場する馬は、当番区内の農家で飼われていた農耕馬。射手も当番区内の住民が担当していました。ところが、昭和35年、農作業の機械化とともに、農耕馬が姿を消し、花馬・流鏑馬の中断を余儀なくされました。

「花馬・流鏑馬の復活を」との声はあちらこちらで聞こえましたが、馬の手配がかなわず、なかなか実現に至りませんでした。ようやく復活に至ったのが平成14年。花馬を実施しました。翌15年には流鏑馬も。以来、地元有志で結成した本郷根岸花馬保存会が中心となり、継承しています。「かつての花馬・流鏑馬のように、地元の馬、地元の騎手による花馬・流鏑馬が開催できたら理想的」と語る青木さん。その理想に少しでも近づけるよう、この伝統文化を継承し、多くの人に知ってもらうことに全力を注いでいます。

60年のあゆみ

昭和29年→昭和54年

平成26年に市制施行60周年という記念すべき年を迎えた藤岡市。
60年のあゆみを年表と写真で振り返ります。

昭和29年 ―― 昭和54年

昭和

- 29年4月 ● 藤岡市制施行（藤岡町・神流村・小野村・美土里村・美九里村合併）人口33，879人
- 5月 ● 藤岡市消防組発足
- 30年3月 ● 初代市長に福島元助氏就任
- 7月 ● 平井村・日野村編入合併、人口43，475人
- 32年6月 ● 公選第1回市議会議員選挙
- 10月 ● 多野藤岡医療事務市町村組合設立
- 34年4月 ● 「藤岡町史」を刊行
- 35年5月 ● 藤岡市消防団常備消防部発足
- 36年2月 ● 緑埜橋完成
- 4月 ● 北藤岡駅開業
- 37年5月 ● 多野藤岡伝染病隔離病舎（現公立藤岡総合病院）開設
- 6月 ● 第二代市長に荻原俊氏就任
- 8月 ● 藤岡・新町・吉井・鬼石環境衛生組合設立
- 38年2月 ● 水宮神社大ケヤキを県天然記念物に指定
- 7月 ● 藤岡市・新町ガス企業団設立
- 39年4月 ● ごみ収集を無料化
- 8月 ● し尿処理場操業開始
- 12月 ● 市民プール開場
- 40年3月 ● 消防署、救急業務開始
- 12月 ● 藤岡と新町を結ぶ産業道路完成
- 41年5月 ● 国道17号バイパス開通
- 42年10月 ● 三本木清掃工場稼働
- 12月 ● 市役所新庁舎完成、新庁舎へ移転、市役所業務新庁舎にて開始
- 43年3月 ● 市立図書館開館
- 12月 ● 岡之郷・立石新田簡易水道完成
- 44年6月 ● 交通指導員制度創設　指導員35名任命
- 45年5月 ● 第三代市長に神田岸生氏就任
- 8月 ● 自転車安全乗り方コンクール全国大会で藤岡第一小が優勝
- 46年3月 ● 老人福祉センター完成
- 4月 ● 中学校統合により南中学校創立
- 47年4月 ● 市民体育館完成
- 8月 ● 多野藤岡広域市町村圏振興整備組合誕生
- 48年4月 ● 武道館設置
- 広域圏常備消防本部発足
- 伊勢塚古墳県指定史跡となる
- 49年4月 ● 統合西中学校創立
- 8月 ● 勤労青少年ホーム完成
- 5月 ● 市民憲章制定
- 10月 ● 元横綱琴桜一行土師の辻にて奉納相撲披露
- 12月 ● 庚申山総合公園オープン
- 50年4月 ● 上日野赤久縄山珍獣「ヤマネ」国指定天然記念物となる
- 6月 ● 市の人口5万人突破
- 12月 ● 統合東中学校・北中学校創立
- 51年4月 ● 火葬場（偕同苑）完成
- 11月 ● 藤岡市郷土資料館設置
- 52年4月 ● 女性交通指導員誕生
- 53年2月 ● 学校給食センター業務開始
- 4月 ● 市役所東庁舎完成
- 5月 ● 第四代市長に吉野益氏就任
- 54年4月 ● 城山サッカー場（現中央公園）オープン

4丁目（昭和31年）

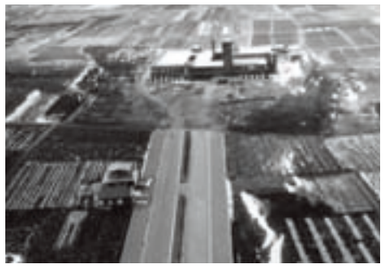
諏訪神社神輿（昭和33年）

養蚕風景（昭和43年頃）

七夕まつり（昭和41年）

全国自転車安全乗り方コンクール全国大会
藤岡第一小優勝（昭和45年）

土師神社奉納相撲（昭和49年）


藤岡市役所（昭和43年）

三名湖（昭和37年頃）

達磨窯（昭和35年頃）

消防団火災演習（昭和33年）

群馬藤岡駅（昭和32年）

藤岡まつり商店街大売り出し
パレード（昭和31年）

60年のあゆみ

昭和55年→平成17年

昭和55年

- 55年7月 ●臨海学校開所（新潟県石地海岸に広域圏事業として設置）
- ●関越自動車道藤岡インターチェンジ開業
- 57年3月 ●勤労者体育館完成
- ●市旗を制定
- 5月 ●烏川運動公園広場オープン
- ●市歌を制定
- 7月 ●鏑川橋完成開通
- 12月 ●上水道浄水場完成
- 58年3月 ●あかぎ国体サッカー競技開催
- 10月 ●小野中学校創立
- 59年4月 ●日航ジャンボ機墜落事故
- 60年8月 ●非核平和都市宣言
- 9月 ●清掃センター完成
- 61年2月 ●国道254号線藤岡バイパス開通
- 3月 ●石川県羽咋市と姉妹都市提携
- 62年7月 ●市民ホール完成
- 10月 ●公共下水道一部供用開始
- 63年1月 ●中学校給食センター完成
- 3月 ●市民体育館完成
- 5月 ●皇子塚古墳から金鋼製環頭太刀の柄頭が出土
- 9月 ●前橋・長瀞線藤岡バイパス開通
- 12月 ●市の人口6万人突破
- 元年1月 ●市デイサービスセンターオープン
- 2年5月 ●二千階段完成（高山・印地地区）
- 6月 ●七興山古墳で3つ目の堀見つかる
- 10月 ●新図書館オープン

昭和63年

平成

平成元年

- 3年5月 ●藤岡市民球場オープン
- 4年6月 ●陸上競技場完成
- 5年3月 ●上信越自動車道開通
- ●平井一号墳が県史跡となる
- ●土と火の里公園オープン
- 6年4月 ●弓道場完成
- 7月 ●第五代市長に塚本昭次氏就任
- 12月 ●藤岡市ふれあい健康福祉都市宣言
- 5月 ●みかぼみらい館オープン
- 7年2月 ●ふじふれあい館オープン
- 4月 ●子供たちを守る「あんしんの家」設置
- 9年8月 ●市内全域で資源ゴミ分別回収開始
- 10月 ●藤岡市人権尊重都市宣言
- 11年2月 ●平井城・金山城跡県指定史跡となる
- 3月 ●藤岡中央児童館オープン
- 4月 ●「ららん藤岡」オープン
- 12年4月 ●中国江蘇省江陰市と友好都市締結
- ●美九里・日野公民館に市民サービスセンター開設
- 13年4月 ●6歳未満児までの医療費全診療費無料化
- 14年5月 ●第六代市長に新井利明氏就任
- 7月 ●市民プール「みずとぴあ藤岡」オープン
- 15年4月 ●福祉支援センター「もくせい」開所
- 16年7月 ●「埋蔵文化財収蔵庫」オープン
- 11月 ●藤岡市と鬼石町の合併協定調印式
- 12月 ●「藤岡市子ども憲章」制定
- 17年4月 ●障害児学童保育所「ふらっと」オープン

平成17年

関越自動車道歩け歩け大会（昭和55年）

友好都市調印式（平成12年）

ららん藤岡オープン（平成12年）

みらい藤岡子ども議会（平成13年）

上信越自動車道開通記念フェスティバル（平成5年）

巨大壁画描初式（平成2年）

上信越自動車道落書き大会（平成4年）

あかぎ国体聖火リレー（昭和58年）

前橋・長瀞線藤岡バイパス開通（昭和63年）

みずとぴあ藤岡10万人記念（平成15年）

全国太鼓フェスティバル（平成13年）

市制施行50周年イベント（平成16年）

合併協定調印式（平成16年）

60年のあゆみ

平成18年→平成22年

鬼石総合支所開所式

鬼恋節分祭（平成18年）

NHKのど自慢公開録画（平成18年）

湯原昌幸さんを観光大使に委嘱
（写真は平成19年ふじまつり）

平成22年 ---------- 平成18年

- 18年1月 ● 新「藤岡市」の誕生　新生「藤岡市」発足式
- 2月 ● 本庁、鬼石総合支所開所式
- ● 藤岡市・鬼石町合併記念式典
- ● 第1回藤岡市鬼石地域審議会開催
- 4月 ● 蛇喰渓谷整備完成
- 9月 ● NHKのど自慢公開録画
- 10月 ● 藤岡市総合運動公園拡張
- ● 湯原昌幸さんを観光大使に委嘱
- 11月 ● 行政改革大綱・行政改革推進計画策定
- ● ふじおか教育の日制定
- 19年1月 ● 富岡製糸場と絹産業遺産群（高山社跡）が世界遺産
- 国内候補地に選定
- 3月 ● 県立藤岡高等学校、県立藤岡女子高等学校閉校
- ● 中山秀征さんを観光大使に委嘱
- 6月 ● 新上落合樋管完成
- 8月 ● 三波石峡文化財指定50周年記念
- 20年3月 ● 長瀞線バイパス「上大塚～鮎川間」暫定開通
- ● 第4次藤岡市総合計画を策定
- 10月 ● 三波川地区に小型デマンドバス運行開始
- 12月 ● 桜山公園100周年記念式典
- 21年7月 ● 毛野国白石丘陵公園オープン
- ● 「高山社跡」国史跡指定となる
- 8月 ● 市制55周年記念　花火大会
- 10月 ● 県営ふるさと農道「矢場～鬼石間」全面開通
- ● 高齢者自立センター鬼石オープン
- 22年3月 ● 小林立石線「小林～下栗須間」暫定開通
- 4月 ● 総合学習センターオープン

市制施行55周年
記念花火大会
（平成21年）

桜山公園100周年記念式典（平成20年）

中山秀征さんを観光大使に委嘱
（平成19年）

ふるさと農道「矢場～鬼石間」
全面開通（平成21年）

新生「藤岡市」、誕生。

平成18年1月1日、歩み始めた新しい「藤岡市」

地方分権型の地域経営確立が迫られる中、多野藤岡地域の将来を見据え、また市町村合併特例法期限内の合併を目指すため、平成16年7月、「藤岡市・鬼石町合併協議会」が設置されました。

同年11月25日までに6回の協議会を開催し、合併に関わるさまざまな問題が協議されました。26の協議項目および22の事務事業についてすべて承認されたことを受けて、新井利明藤岡市長と関口茂樹鬼石町長は合併協定調印を行いました。

そして、平成18年1月1日、藤岡市と鬼石町の合併が成立し、新しい藤岡市が誕生しました。

新市のまちづくりに際しては、10年後の平成27年度を計画期間とする新市建設計画が立てられ、新市の速やかな一体化を促進し、地域の均衡ある発展と住民福祉の向上を図るための方策が順調に進められています。

新生「藤岡市」発足式

群馬銀行は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保護活動を応援します

ファンドの特色

1. マザーファンドへの投資を通じて、主として日本株式と世界債券へ分散投資することにより、利息・配当収益の確保と信託財産の長期的な成長を目指します。
※日本株式部分（ファンドの純資産総額の50%程度）については、群馬関連企業（上場株式に限ります。）に投資を行います。
2. 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
3. 年4回の収益分配を目指します。
●毎年1、4、7、10月の4日（休業日の場合は翌営業日）を決算日として、毎決算日に収益の分配を目指します。

お客さまにご負担いただいた運用管理費用（信託報酬）の一部を『富岡製糸場と絹産業遺産群』保護のために寄付を行います。

●当ファンドの販売会社および委託会社は、収受した運用管理費用（信託報酬）の一部（それぞれ運用管理費用（信託報酬）率のうち年率0.1%程度）を『富岡製糸場と絹産業遺産群』保護のために寄付を行います。
●寄付先および寄付金額の具体的内容については、運用報告書等において開示いたします。

	寄付金額
販売会社	各販売会社が、毎年7月の決算期末を基準に、前1年間に収受した運用管理費用（信託報酬）の中から、各販売会社の取り扱い純資産総額に応じて、当該期間中の日々の純資産総額に年率0.10%を乗じて得た金額（ただし、将来的には状況によって寄付金額が変更になることがあります。）。
委託会社	毎年7月の決算期末を基準に、前1年間に収受した運用管理費用（信託報酬）の中から、当該期間中の日々の純資産総額に年率0.10%を乗じて得た金額（ただし、将来的には状況によって寄付金額が変更になることがあります。）。

ご注意いただきたいポイント

・ファンドの費用：お客さまが直接的に負担する費用【購入時手数料】上限2.16%(税抜2.0%)【信託財産留保額】かかりません。お客さまが間接的に負担する費用【運用管理費用（信託報酬）】純資産総額に対して年率1.4472%（税抜1.34%）【その他費用・手数料】監査費用、有価証券売買時の売買委託手数料、組入資産の保管費用等（消費税相当額を含む）がかかります。これらの費用は運用状況等により変動するため、その総額および上限額等を示すことができません。・ファンドのリスク：組入れ有価証券等の値動きにより変動する（外貨建資産は為替変動リスクもあります）ため、お受取金額が投資元本を割り込む（損失が生じる）リスクがあります。これらのリスクはお客さまご自身が負担することとなります。※当ファンドの主なリスクは、株価変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、信用リスクです。・ご留意事項：投資信託は預金商品ではなく、元本および分配金の保証はありません。お申込みにあたっては、契約締結前交付書面（目論見書および目論見書補完書面）等を十分お読みいただき、内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

お問い合わせ 群馬銀行ダイレクトセンター
フリーダイヤル 0120-139138
受付時間 9:00～17:00（土・日・祝休日、12/31～1/3を除く）

商号等 株式会社群馬銀行
登録金融機関 関東財務局長（登金）第46号
加入協会 日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会

世界遺産 富岡製糸場と絹産業遺産群
あなたの夢、応援します。
群馬銀行
http://www.gunmabank.co.jp/
〈平成26年12月10日現在〉

藤岡まつりに群馬医療福祉大学学生参加（平成22年）

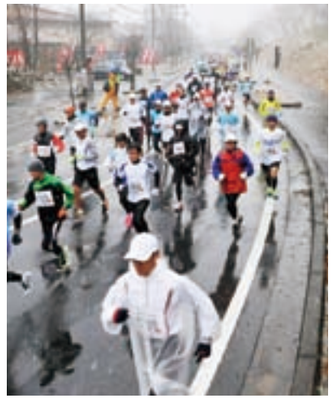
60年のあゆみ

平成22年→平成26年

平成22年 ―― 平成26年

- 22年4月 ●群馬医療福祉大学看護部開学
- 5月 ●障害者支援センター「きらら」オープン
- 6月 ●藤岡防犯ステーションオープン
- ●中国江陰市との友好都市10周年
- 7月 ●かんな川水辺の楽校完成
- 10月 ●保美憩いの広場オープン
- 23年3月 ●東日本大震災発生　市内でも被害
- 4月 ●行政区設置改正（93区→80区）
- 24年4月 ●第3子以降の保育料を無料化
- 5月 ●第1回チャレンジサイクリングフェスタ in FUJIOKA
- 6月 ●前橋長瀞バイパス藤岡工区（国道254号から南側に850m）開通
- 7月 ●新潟県上越市と集客プロモーションパートナー都市協定を締結
- ●富岡製糸場と絹産業遺産群（高山社跡）世界遺産推薦候補入り
- 8月 ●景観行政団体に移行
- 10月 ●「市内循環線」「三ツ木～高山線」10人乗り小型車両で運行開始
- 25年1月 ●第1回上州藤岡蚕マラソン
- 3月 ●北部環状線「小林交差点～笹川間」暫定開通
- 6月 ●会遊亭オープン
- 10月 ●インターネットで市議会録画配信開始
- 26年2月 ●看護師育成奨学金制度を開始
- ●大雪により家屋や農業施設に大被害
- 4月 ●県立みやま養護学校藤岡分校開校
- ●情報センターおにしオープン
- 6月 ●富岡製糸場と絹産業遺産群（高山社跡）が世界文化遺産登録
- 8月 ●市政60周年記念　花火大会

高山社跡が世界文化遺産へ（平成26年）


第1回上州藤岡蚕マラソン（平成25年）

第1回チャレンジサイクリングフェスタ（平成24年）

グラフふじおか（市制施行60周年記念）
平成27年3月発行　企画・編集■藤岡市　〒375−8601　藤岡市中栗須327　電話0274−22−1211　制作・印刷■朝日印刷工業株式会社

夢を語ろう、手をつなごう。

私たちは一人ひとりのお客さまとの信頼関係を基本に、
個人の夢や事業発展に向けた計画について語り合い、
ご相談いただける身近で頼れる金融機関でありたい。
お客さまの夢や希望を実現するために、
真摯に話し合いお客さまに寄り添い手をつないで
全力で応援する最良のパートナーでありたい。
その思いをこのスローガンに込めています。

しののめ信用金庫 藤岡市内店舗

「地域との強い絆」

■ 藤岡営業部	藤岡市藤岡 314	TEL 0274-22-1411	■ 藤岡北支店	藤岡市中栗須 255-1	TEL 0274-24-1122
■ 大塚支店	藤岡市上大塚 375-1	TEL 0274-22-6701	■ 藤岡市役所出張所	藤岡市中栗須 327	TEL 0274-24-1035
■ 藤岡東支店	藤岡市藤岡 1-1	TEL 0274-23-8800	■ 鬼石支店	藤岡市鬼石 277-2	TEL 0274-52-2626

夢を語ろう、手をつなごう。
しののめ信用金庫